

高橋孝眞の

平成26年2月

県政レポート

No. 7

《皆様のご意見・声をお聞かせ下さい》

高橋孝眞事務所 TEL.FAX.0197-73-8885

事務所メールアドレス koushinn-jimusho@globe.ocn.ne.jp

〒024-0334 北上市和賀町藤根 17-121-3

高橋孝眞携帯 090-4557-3562

三年目の春に思いを寄せて

高橋孝眞

市内高等学校からの卒業式の案内が届き、春は着実に来ています。自分が思っている以上に世の中の時計の速さを痛感いたしております。年明けの1月中旬に、日頃お世話いただいております後援会の役員・支部長さん方に県政の報告をさせて頂きました。次回は多勢の皆さん



に呼びかけ四月十八日(金)開催を予定しております。もうすぐ三年を迎えます東日本大震災の復興、県は事業執行として9割方順調に進んでいるとの報告です。しかし、実際に被災された方々は、どう感じているかとのアンケートからは7割以上の方が未だ復興を実感していない、進んでいないのではないかと回答しております。現在も仮設住宅に3万人以上の方が安定した暮らしが取り戻せていないという現実です。災害公営住宅建設の遅れ、埋め立ての伴う土地区画整理事業の遅れ、集団移転先の用地取得の遅れ、建設業の労働者不足、資材不足など復興を妨げる数々の課題を一つ一つ解決し、復興を加速する一年にしていかなければいけないのだと思っております。

また、今年から米政策が見直され所得安定対策が変わって参ります。農林水産委員会に所属し「あなたは専門家だ」と言われますが、なかなか難しいところ。10aあたり一万五千円の戸別所得補償金が七五〇〇円と半分に減額となり、5年間の暫定措置ということですが、それでも、県全体で見ますと、年間30億円の減収となります。米の消費が年々減少し、これからも減少すると予想されており、更に農業従事者の高齢化から担い手の確保をどうするかなど課題が多くありますが、美しい農地を荒らすことなく、次の世代に繋げていく方法を早急に確立しなければと思っております。

県の財政は、公債費率が18%を超え、借入金の割合が高くこれからの借入金には国の許可を得ながら実施していくこととなります。非常に厳しい財政運営であり無駄のない予算の執行をしていかなければいけない。努力して改善できるものについて改善をし、見直して欲しいと思っております。これらを頭に置きながら活動して参ります。皆様にとりまして素晴らしい年でありますようご祈念申し上げます。

常任委員会活動

農林水産委員会県外調査報告

広島県廿日市市、兵庫県三次市・宍粟市・加西市他

平成26年1月21日(火)~3日(木)



但馬牛と一緒にハイポーズ

『(独)法 水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所』(廿日市市) 瀬戸内海の水産資源に関する調査研究の動向について調査。この研究所は、瀬戸内海の海に流れ込む有害な化学物質が海と海の生き物たちに、どう影響しているのか、その対策またプランクトンが引き起こす赤潮や貝毒が、養殖等の水産業に大きな被害が出てきている。これら被害対策の研究がされている。

『(有)平田農園』(三次市) 観光農園の運営と六次産業化の取組について調査。事業内容は、果樹栽培を中心とした観光農業、農産加工、販売。時代のニーズに合わせた周年型観光農園と農村交流(グリーンツーリズム)の展開をしている。

『宍粟市(産)産部商工林業課』(宍粟市) 宍粟市における林業施策、地域材の利用促進の取組について調査。森林の持つ公益的機能の高度発揮及び地域林業の活性化を目的として、宍粟材の普及啓発、小中径木及び間伐材の利用促進、地域林業の担い手育成、公共施設の木造・木質化への提言など含み行っている。

『兵庫県 畜産技術センター』(加西市)

て調査。但馬牛は古くから但馬地方だけ伝わる和牛で使役牛として、又肉が軟らかく食用に用いられてきた。昭和40年以降全国的に肉質の向上を目指し但馬牛との交配により岩手牛なり前沢牛としてのブランドの向上に寄与しています。当センターでは、純粋な但馬牛を遺すべき近親交配を避けながら種雄牛の育成管理をしている。現在は、口蹄疫の問題から距離を置いた二か所の牛舎で飼育管理とのこと。

環境・防災特別委員会県外調査

平成25年12月11日(水)~13日(金)

岡山県のエネルギーの取組と

兵庫県災害からの復興

岡山県は、全国で最も雨が降らない「晴れの国」として知られ、全県丸ごとメガソーラー発電所構想の推進を目指している。モデルとして、岡山県企業局が県有地を活用した「県営岡山空港太陽光発電所」(発電能力3.5MW)を建設した。一般家庭約1,000世帯分に当たる年間約390万kwhの発電が可能となる。

岡山県真庭市は、中国山地を背にし、木材の大集積地になっている。早くからバイオマス活用と里山方式として、木材の端材オガ粉等の活用から木材の100%利用を目指し薪ストーブや発電に取り組んでいる。今回新たに市と民間企業が共同で木質バイオマスだけを燃料に使う発電所を建設するもので、10Mwの発電規模で二〇一五年四月から運転を開始する予定のところ。兵庫県佐用町は、平成21年8月9日午後9時に日本の南海上で熱帯低気圧から台風9号により、人為的な被害、河川道路、農地農業用施設など甚大な被害が発生した。この教訓を活かし、生活基盤の再生、災害に強いまちづくり、地域の活力向上を目標とした取り組みを推進するなど、住民同士が災害に対しての意識向上と対応の周知について積極的にかかわっている。

兵庫県の、「総合治水条例」を調査。開発や都市化の進行、局地的大雨の多発により、浸水発生時の被害が従来よりも拡大しており、「河川下水道対策」に「流域対策」と「減災対策」を効果的に組み合わせると共に、より具体化として、大規模開発に伴う調整池の設置を義務付けたとのこと。



岡山空港の太陽光発電所